

令和3年度（2021年度）新規研究課題

課題番号：R3-11

課題名：病害を抑える山口県オリジナル林業用コンテナ苗培土の開発

研究期間：令和3年度～令和5年度（2021年度～2023年度）

研究担当：林業技術部林業研究室

1 研究の背景

戦後植栽されたスギ・ヒノキ人工林は成熟し、現在、本格的な利用期を迎えている。森林の多面的機能を維持・発揮しながら、森林資源の循環利用を図るためには、伐採後の確実な再生林が重要となっている。

その実現には、伐採から造林までのコスト低減が可能な「一貫作業システム」を定着させ、森林所有者の施業意欲の向上を図ることが必要であり、本システムに不可欠なコンテナ苗についても、低コストで効率的な育苗技術の開発が求められている。

このような中、コンテナ苗に顕著な根腐れ病の被害が、苗木の生産性を大きく阻害する要因となっており、円滑な防除法の確立が急がれる。

2 目的

農業分野で根腐れ病の予防効果が認められている酸化鉄について、林業用コンテナ苗への有用性と施用法の検証を行い、その技術を取り入れた「山口県オリジナル林業用コンテナ苗培土」の開発により、効率的な健全苗の生産を図る。

3 研究内容

(1) 最適な酸化鉄含有量の検証

培土に酸化鉄を配合して育苗し、病害を抑制する効果の有無及び最も効果的な酸化鉄含有量の検証・解明を行う。

(2) 生産現場における実証試験の実施

上記(1)で解明した酸化鉄量等を含む育苗培土を作成し、県内数か所で一般生産者による育苗試験を行い、異なる環境下における抑制効果の検証を行う。

(3) 培地の実用化

開発した培地を一般生産者が利用できるよう、供給体制について検討を行い、その確立を図る。

4 研究のポイント

- ・林業用コンテナ苗の培地において、これまで病害に抑制効果があると謳ったものは無く、発症を未然に抑制する効果を付与できれば、画期的である。
- ・本技術の確立により、健全な苗を低コストで生産することが可能となれば、コンテナ苗価格の低減により、主伐後の着実な再生林の推進に資することができる。

病害を抑える山口県オリジナル 林業用コンテナ苗培土の開発

研究期間：R3-R5（2021-2023）
研究担当：林業技術部 林業研究室

【目的】

再造林での利用増加が見込まれるコンテナ苗について、育苗中の病害を抑えるオリジナル培土の開発を行う。

【研究内容】

病害を抑える

山口県オリジナル林業用コンテナ苗培土の開発

1 病害の抑制に有効な酸化鉄量の検証

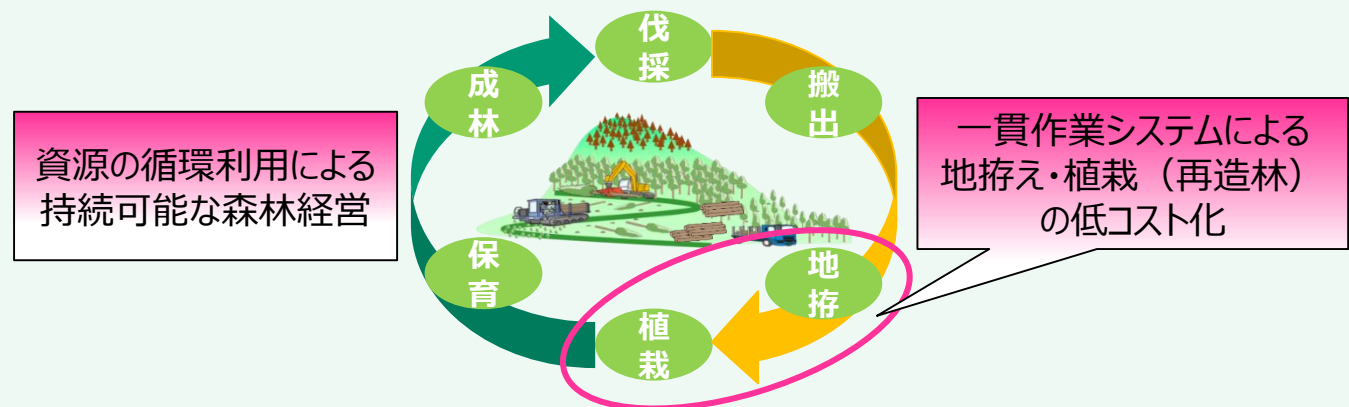
病害抑制に効果がある酸化鉄を培土に配合して育苗し、最適な含有量を解明する。

2 オリジナル培土実用化のための検証

最適な酸化鉄等を含んだ県オリジナルの培土を開発し、供給する体制づくりに取り組む。

【到達目標】

- ・得苗率70%以上
- ・病害の抑制に最適な酸化鉄等を含んだオリジナル培土の開発



コンテナ苗の価格低減・再造林の促進